

鸚鵡

——大震覚え書の一つ——

芥川龍之介

青空文庫

これは御覧の通り覚え書に過ぎない。覚え書を覚え書のまま発表するのは時間の余裕に乏しい為である。或は又その外にも気持ちの余裕に乏しい為である。しかし覚え書のまま発表することに多少は意味のない訣わけでもない。大正十二年九月十四日記。

本所横網町ほんじよ よこあみちやうに住める一中節いつちうぶしの師匠ししやう。名は鐘大夫かねだいふ。

年は六十三歳。十七歳の孫娘と二人暮らしなり。

家は地震にも潰つぶれざりしかど、忽ち近隣に出火あり。孫娘と共にりやうごく両国りやうごくに走る。携たづさへしものは鸚鵡あうむの籠かごのみ。鸚鵡の名は五郎ごろう。背は鼠色、腹は桃色。芸は鋸屋かざりやの槌つちの音と「ナル」（成程なるほど）

の略）といふ言葉とを真似るだけなり。

両国りやうこくより人形町にんぎやうちやうへ出づる間あひだにいつか孫娘と離れ離れ

になる。心配なれども探してゐる暇ひまなし。往來わうらいの人波。荷物の

山。カナリヤの籠を持ちし女を見る。待合まちあひの女将おかみかと思はるる

服装。「こちとらに似たものもあると思ひました」といふ。その

位の余裕はあるものと見ゆ。

鎧橋よろひばしに出づ。町の片側は火事なり。その側かはに面せるに顔、

焼くるかと思ふほど熱かりし由。又何か落つると思へば、電線を

被おほへる鉛管えんかんの火熱くわねつの為に熔とけ落つるなり。この辺へんより一層人

に押され、度たびたび鸚鵡あうむの籠も潰つぶれずやと思ふ。鸚鵡は始終狂ひま

はりて已やまず。

丸の内に^{まるうち}出づれば日比谷^{ひびや}の空に火事の煙の揚^あがるを見る。警視庁、帝劇などの焼け居りしならん。やつと楠^{くすのき}の銅像のほとりに至る。芝の上に坐りしかど、孫娘のことが気にかかりてならず。大声に孫娘の名を呼びつつ、避難民の間^{あひだ}を探しまはる。日暮^{にちぼ}。遂に松のかげに横はる。隣りは店員数人をつれたる株屋。空は火事の煙の為、どちらを見てもまつ赤^かなり。鸚鵡、突然「ナアル」といふ。

翌日も丸の内一帯より日比谷迄^{まで}、孫娘を探しまはる。「人形町なり両国なりへ引つ返さうといふ気は出ませんでした」といふ。午^{ひる}ごろより饑渴^{きかつ}を覚ゆること切なり。やむを得ず日比谷の池の水を飲む。孫娘は遂に見つからず。夜は又丸の内の芝の上に横はる。

鸚鵡の籠を枕べに置きつつ、人に盗まれはせぬかと思ふ。日比谷の池の家鴨を食らへる避難民を見たればなり。空にはなほ火事の明りを見る。

みつか 三日は孫娘を断念し、新宿の甥を尋ねんとす。桜田より

はんざうもん 半蔵門に出づるに、新宿も亦焼けたりと聞き、谷中の檀那寺

を頼らばやと思ふ。饑渴愈甚だし。「五郎を殺すのは厭ですが、

おちたら食はうと思ひました」といふ。九段上へ出づる途中、

役所の小使らしきものにやつと玄米一合余りを貰ひ、生のまま

噛み砕きて食す。又つらつら考へれば、鸚鵡の籠を提げたるまま、

檀那寺の世話にはならぬやうなり。即ち鸚鵡に玄米の残りを

食はせ、九段上の濠端よりこれを放つ。薄暮、谷中の檀那寺に

至る。和尚^{をしやう}、親切に幾日でもゐろといふ。

五日^{いつか}の朝、僕の家^{きた}に来る。未だ孫娘^{いま}の行く方^ゆを知らずといふ。

意気な平生のお師匠^{ししやう}さんとは思はれぬほど憔悴^{せうすゐ}し居たり。

附記。新宿の甥の家は焼けざりし由。孫娘は其処^{そこ}に避難し居りし由。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

鸚鵡

——大震覚え書の一つ——

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 芥川龍之介

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>